

令和3年度 学校評価(保護者アンケート)まとめ

11月に実施いたしました学校評価保護者アンケートについて、集計結果を表面にお示しいたしました。今回からGoogle Formを利用して、ご回答いただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

今年度は、全20項目中、15項目でA(よくあてはまる)、B(ややあてはまる)の割合の合計が90%を上回ることができました。また、8項目について、前年度の数値を上回ることができました。

項目ごとに見ていくと、A+Bの割合が高かった項目は、①「環境を整え、安心安全な学校づくりを進めている。」②「作業・体験・発表などを取り入れた授業を行っている。」③「教えを工夫し、わかりやすい授業を行っている。」④「学校生活を楽しく送っている。」⑤「思いやりのある子(相手の事を考え素直で明るい子に育っている。)」となりました。

また、昨年度と比較し、A+Bの割合が高くなった項目は、①「読書に親しんでいる。」②「作業・体験・発表などを取り入れた授業を行っている。」③「基本的な生活習慣(時・物・場を大切にすることが身に付いている。)」④「外部や地域の人材を積極的に活用している。」となっており、昨年度に引き続き本校が力を入れて取り組んでいる読書の取組や学力向上につながるための日常的な授業改善、日常の生徒指導の徹底、外部人材を活用した体験的な学習の充実について、高い評価をいただきました。

A+Bが低かった項目は、①「運動を進んで行っている。」②「読書に親しんでいる。」③「ねばり強い子(何事にも努力する子に育っている。)」④「体をきたえる子(健康に注意したくましい子に育っている。)」となりました。読書に親しむ児童の育成については、肯定的回答率が90%以下ではあるものの、昨年度よりも割合が高くなっており、一定の成果を見ることができました。

また、昨年度と比較し、A+Bの割合がやや低くなった項目は、①「いじめを見逃さず、指導を行っている。」②「どんなことでも児童の相談にのっている。」③「おはよう・こんにちは・ありがとうをきちんと言える」④「運動を進んで行っている」となっており、体力向上の取組やいじめを許さない生徒指導の徹底、一人ひとりの児童に寄り添った教育相談の充実について課題が見られました。いじめを許さない指導については、ハートの日の取組や保護者によるアンケートに限らず、日常的にいじめ撲滅の視点に立ったいじめを許さない指導を徹底してまいります。また、体力の向上については、一人一人の体力の目標を明確にし、児童自ら進んで体力の向上を図ることができるよう具体的な取組を学校全体で進めてまいります。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらも、児童一人ひとりへの学びを保障することに重点をおいて取り組みました。そのため、学校教育目標の「よく考える子」や分かりやすい授業、作業・体験・発表を取り入れた授業において、一定の評価をいただくことができました。次年度は、草加市の基本方針でもある「一人ひとりを大切にされた教育」のさらなる充実を念頭に置き、教育相談の充実、人権教育の推進、家庭・地域との連携等に重点をおいて取り組んでまいります。また、栄中学校区が進めている幼保小中を一貫した教育「互いに学び合い、認め合い、高め合う子どもの育成～自己肯定感を高め、自己有用感を実感できる教育の充実～」の実現に向けて、各校・各園と共通理解を深め、具体的な取組の充実を図ってまいります。

現在、教職員で学校評価の内容や学校運営協議会で協議されたことなどをもとに、来年度の教育活動について年間指導計画の見直しを行っています。国・県・市の方針や施策をふまえつつ、自校の特色ある教育活動を実践すべく検討していきます。日々変化する状況を見極めながら、随時工夫改善を図り、「チーム栄小」として取り組んでまいりますので、これからも保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。